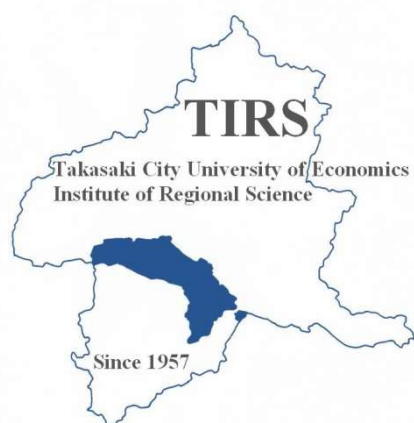




高崎経済大学地域科学研究所 ニュースレター No.24

目次	所長挨拶	(1)
	事業報告① 第9回連携公開講座報告	(1)
	事業報告② 第17地元学講座	(3)
	事業報告③ 研究プロジェクト報告書合評会	(3)
	研究プロジェクト進捗報告	(4)
	地域科学研究所事業 受講者アンケート	(6)
	地域科学研究所動静	(11)

所長挨拶

本ニュースレターには、高崎経済大学地域科学研究所の事業のうち、第9回連携公開講座、第17回地元学講座、研究プロジェクト報告書合評会、研究プロジェクトの進捗状況についての概要報告等を掲載いたしました。是非ご一読ください。

地域社会を取り巻く環境は急速に変化しており、人口減少や高齢化、地域経済の再構築、さらにはデジタル化や脱炭素社会への移行といった課題が顕在化しています。当研究所では、こうした課題に対し、地域の皆さまと知恵を出し合い、新たな価値を創造することを目指しています。

市民の皆さまには、今後とも当地域科学研究所の事業に積極的にご参加いただき、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

所長 佐藤 徹

事業報告① 第9回連携公開講座報告

今年は、5月18日から6月15日にわたり、高崎市中央公民館にて、連携公開講座が開催されました。今回は高崎経済大学地域政策学部観光政策学科編『大学的群馬ガイドーこだわりの歩き方』をテキストに使用し、執筆者である所員が各テーマを講じました。大変ありがたいことに多くの参加申し込みをいただき開催することができました。

開催講座のテーマおよび講師は次の通りです。

◎第1回：5月18日（土）開催

「上野国の伝説とその足跡」

講師:鈴木 耕太郎 所員

(地域政策学部准教授)

◎第2回：5月25日（土）開催

「群馬の食・農探訪 ―高崎市を事例として」

講師:片岡 美喜 所員 (地域政策学部教授)

◎第3回：6月1日（土）開催

「神社と自然を生かした観光と地域活性化 ―榛名神社社家町の事例」

講師:八木橋 慶一 所員 (地域政策学部教授)

◎第4回：6月8日（土）開催

「群馬で熱帯作物に出会う ―キャッサバが生み出す多文化ネットワーク」

講師:黒崎 龍悟 所員 (経済学部准教授)

◎第5回：6月15日（土）開催

「推理小説の中の群馬 ―なぜあの人は観光地で殺されなくてはならなかったのか」

講師:安田 慎 所員 (地域政策学部准教授)



「大学的群馬ガイド—こだわりの歩き方」

編集責任者：
安田 慎 准教授

本年度の連携公開講座は、例年とは異なり2024年3月に発行された『大学的群馬ガイド—こだわりの歩き方』をテーマに取り上げて企画を行いました。本書の執筆者たちが実際に登壇し、それぞれの章の内容や執筆の背景について話をしながら、観光という観点から群馬県やそれぞれの地域について、改めて理解を深めていこうというものでした。特に公開講座の企画では、群馬県を広く捉えていきたいという思いから、食や自然、文化、地域振興、小説といった多様なテーマとともに、高崎市だけでなく北毛・東毛地域も含めた群馬県各所を対象とした構成を取りました。

例年とは異なり3000円という高めの値段設定であったにも関わらず、定員上限の100名近い参加者の皆様にご応募いただくとともに、毎回多くの出席者の皆様と活発な議論を交わすことができたことは、執筆者としても大変貴重な機会となりました。まずはご多忙のなかにも関わらず、毎回ご参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。また、その過程でさまざまな市民の方々に『大学的群馬ガイド』を知って頂くきっかけとなったことは、本書の編集責任者としては嬉しい限りです。

実は本書の編者や企画立案として関わった身としては、『大学的群馬ガイド』や群馬県の観光をいかに位置づけて公開講座を行うべきかは、最後まで悩むとともに、受講者の皆様の感想をみるなかで、今に至るまで悩みは深まるばかりでした。というのも、普段からどん欲に地元について

調べ、経験を積み重ねている知識欲旺盛な市民の皆様にとっては、本書や公開講座のなかで論じられた内容は、もしかしたら「既に知り尽くしたものの」であり、「薄っぺらいつまらないもの」であったかもしれません。一方で、日常生活のなかで群馬県や観光との関わりが薄い参加者にとっては、本書の内容が「まったく知らなかった世界」や「聞いたこともないテーマ」が散りばめられており、時に難しく感じていたかもしれません。連携公開講座の毎回のコメント・感想では、この両極のご意見を頂くことが常であり、改めて一般市民向けの公開講座とは何であるのか、大学としての社会貢献とは何であるのか、という点について思い悩んでいました。



<講義の様子 講師：安田 慎 所員>

ただ、こうした両極の考えを持つ人びとが一堂に会して、自分たちの知っていること、経験してきたことをベースにしながら、あれこれと感想やコメントを言い合って理解を深めていくことは、実は普段の生活のなかではあまりない、貴重な機会なのではないか、とも感じていた次第です。連携公開講座や「観光」というトピックがもたらす機会が、実は私たちの「地域」や「郷土」を創り出す基盤となっているのかもしれません。そんなことにも思いをめぐらせながら、本連携公開講座に関わってきました。

そして、連携公開講座の最後でも話をさせていただきましたが、本書や本公開講座の内容は、あくまでも一つの「通過点」でしかありません。本書で巻き起こったさまざまな感想や議論を、次のステ

ップにつなげていくとともに、市民の皆様とともに、群馬県の観光をテーマに、第2弾・第3弾の連携公開講座を企画できることを楽しみにしております。

安田 慎（地域政策学部准教授）

事業報告② 第17回地元学講座

「児童養護施設」を知っていますか？

私は児童福祉論という名称の講義を担当しており、授業で学生達に「児童養護施設を知っていますか」と問いかけることがあります。学生達の反応は、聞いたことはあるけれど…といった反応が多いように見受けられますが、多くの方が同じような状況であると推察します（ひと昔前はよく養護学校と間違えられました）。子どもたちの生活の場であることを考えれば、実際に関係者以外の方が施設の中に入ることは憚られ、見学の機会も滅多にないのが実情だと思われます。

そのようななか、事情があって親元で暮らすことが難しい子どもたちを公的責任で保護・養育し、その家庭について支援する役割を担っている児童養護施設をリアルに知って頂きたいという想いから、第17回地元学講座では、高崎市の児童養護施設希望館の全面的な協力を得て、希望館を会場として開催することができました。

児童養護施設希望館は1948（昭和23）年に開設され、戦災孤児の受け入れから始まり、高崎の地で長らく子どものために尽力されてきた施設です。今回の講座では、「今さら聞けない児童養護施設のあれこれ」というテーマで、児童養護施設希望館の赤池裕統施設長が「児童養護施設の子どもたちはなぜ施設に来ることになったの？」等と問いかけ小椋里香施設長が答える形でお話を聞かせていただきました。参加者からの質問も活発になされ、まさに「今さら聞けない」ことをお聴きできる機会となりました。

また、子どもたちが学校に行っている間の時間に、職員の方が夕食の準備をされていて良い香り

がするなか施設見学もさせて頂き、ホーム制（小規模グループケア）の形態をとる施設の構造や生活の様子を垣間見ることができました。さらに、併設している児童家庭支援ホーム希望館（地域住民に開かれた子育て等に関する相談や講座の場）も見学させて頂きました。



<講演の様子 講師：>

小椋 里香 氏（左） 赤池 裕 氏（右）>

児童養護施設に入所するということは、子どもたちの基本的生活や安心安全は守られますが、家庭やそれまで育ったコミュニティから切り離された生活を余儀なくされます。また、多くの施設で高校生は、施設退所後の自立生活に向けてアルバイトをしています。子どもたちを支える職員の方々は入所している子どもたち（今日では虐待を受けた心身に課題をもつ子どもたちが多い）の生活全般を支え、さらに地域の子育て家庭の相談等にも対応し、専門性が求められる職務を担っています。

子どもたちが地域で生活し続けることができるような家族支援や若者支援の充実、施設職員の仕事の理解と待遇向上のためにも、広く市民のみなさまにご理解頂ける機会を今後も作っていくことができればと思っています。

原 史子（地域政策学部教授）

事業報告③研究プロジェクト報告書合評会

地域科学研究所における2019～2021年度研究プロジェクト「地方都市中心市街地研究－人口減少時代におけるまちづくり－」はコロナ禍の影

響を受け、研究期間を1年延長し、2022年度まで実施されました。その調査・研究成果の最終報告書となる『地方都市における中心市街地の課題－人口減少時代とまちづくり－』が2023年9月に日本経済評論社より刊行されています。

研究所では、愛知大学地域政策学部の駒木伸比古教授に同書の書評執筆を依頼し、その内容は紀要『産業研究』第60巻1号に掲載予定です。これに先立ち2024年9月30日に図書館ホールを会場として本書の合評会を開催いたしました。合評会の講演者には駒木教授をお迎えし、執筆者をはじめ、中心市街地問題に関心のある市民の方々や市役所の関連部署の方々が参加されました。

合評会では駒木教授により「地方都市における中心市街地とその課題」、「プロジェクト報告書各章へのコメント及び新たな分析視点の提示」、そして駒木教授自身による「中心市街地における分析結果の紹介と中心市街地活性化に向けた私見」をテーマとした講演が行われました。本書の複数の章への共通したコメントとして、高崎市だけに焦点を当てるのではなく、前橋市や伊勢崎市、太田市など県内の主要都市との比較や、首都圏との関係など、他都市との共通点、都市間競争というマルチスケールの視点からの分析が重要であるという指摘が印象的でした。



＜講演の様子 講師：駒木 伸比古 氏＞

また、駒木教授は、ケヴィン・リンチ(1918-1984)が示したイメージマップ手法による中心市街地のイメージ構築についても言及され、個人的

に大変興味を持ちました。報告書の各章では高崎市による中心市街地活性化基本計画で定められたエリアに基づき考察が行われましたが、中心市街地は市民のものであり、人々が思い描く中心市街地は行政の定めるものとは異なる可能性があるとの指摘は重要と感じました。市民と行政が持つイメージを重ね合わせることで、より効果的な施策が生まれるのではないかと感じました。

最後に、駒木教授には書評と合評会での講演に感謝申し上げます。また当日参加頂いた市民の皆様、市役所の皆様にも御礼申し上げます。そして、本プロジェクトの様々な場面でご協力頂いた先生方、地域科学研究所の皆様、調査にご協力頂いた全ての皆様に心より感謝いたします。

阿部 圭司

(経済学部教授、同プロジェクトリーダー)

研究プロジェクト進捗報告

第22回ニューズレターでもご紹介させていただいたように、私達は昨年度から「高崎経済大学周辺の地域交通とその将来性に関する研究」の課題名で研究プロジェクトを実施させていただいており、今年度はその2年目にあたります。今回はこのプロジェクトの第1回公開講演会として、令和6年7月26日(金)17:40～19:10に関越交通(株)の代表取締役社長佐藤俊也氏と企画部長若木亮氏にお越しいただき、図書館ホールにて「関越交通(株)のバス事業の概況と特徴・課題」と題してご講演いただきました。プロジェクトメンバー(会場およびオンライン)・学生・外部の方々などを含め約50名のご参加者があり、昨今の群馬県内におけるバス交通の現状と展望につき貴重な知見が得られまし、質疑応答も活発に行われました。

バスは生活に身近ではありますが、その運行や経営状態などが広く知られているわけではありません。近年、高齢化の進行や環境意識の高まり、コンパクトシティ政策の進展などにともないバ

ス交通の重要性が再認識されるとともに、地域によってはモータリゼーションや人口減少、人手不足などの影響でその持続性に懸念も示されるなど、同交通は大きな転機を迎えています。今回はこうしたことから、群馬県内で一般路線バス路線を多く運行し、高速バス・貸切バス、自治体の委託によるコミュニティバスやデマンドバスなども幅広く担っている関越交通株式会社の社長・ご担当者をお招きし、ご講演いただくという趣旨のもと、本講演会を設定させていただきました。なお本プロジェクトのメンバーの一人、本学の大島登志彦名誉教授には招聘やご連絡に際し、多くのご尽力をいただきました。また同先生のご紹介をきっかけに、本講演会の様子が交通新聞（8月6日）でもとりあげられました。



＜講演の様子 講師：＞

佐藤 俊哉 氏（左） 若木 亮 氏（右）＞

ご講演は同社の沿革・概要のご説明に始まり、安全・自然環境・職場環境・顧客満足などに配慮したこれまでの取り組みについてご紹介がありました。同社はかけ声だけにとどまらず、認証・認定制度などを取得することで客観的な水準の

達成・維持にも努めているとのことでした。ご講演ではさらに、コロナ禍の時期なども含めた最近の経営環境に関しても、具体的な数値をあげてご解説がなされました。需要（輸送人員）や運転手不足の状況は、プロジェクトのメンバーも非常に関心を持っているところでしたので、経営者自身の視点から率直にお話しいただき、大変貴重でした。さらに、客貨混載輸送や自動運転、キャッシュレス化・MaaS・DX・インバウンド・障がい者雇用への対応など、新しい技術やアイデア、社会的要請に対応した最近の取り組みに関してもご紹介がありました。

地方部においてバスなど公共交通の議論はネガティブで希望の少ないものとなりがちですが、今回は実際に現場と経営状況、群馬のバス業界の事情に精通しておられるお2人にお越しいただきお話しを伺ったことで、困難の克服状況や今後の展望など、明るい面についても確認することができました。大学の交通に関する研究会では、交通企業そのものの方にお越しいただく機会是比较的少ないこともあり、参加者の方々からも非常に好評で、ためになる企画でした。ご講演いただいたお2人、ご準備にご協力いただいた事務局の方々や大島先生、さらにはご参加いただいた全ての皆様に、深く感謝申し上げる次第です。

米本 清

（地域政策学部教授、
同プロジェクトリーダー）

地域科学研究所事業 受講者アンケート

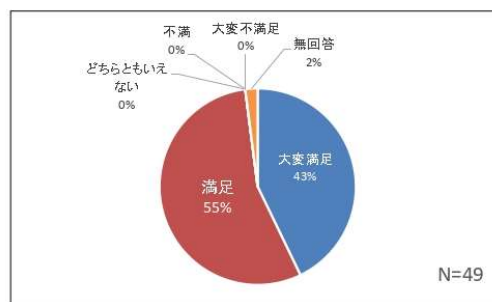
第9回公開講座アンケート調査結果報告(6/15)

受講後、アンケート調査を実施した。
[有効回答数：49人(回収率：75.38%)]

出席人数 65人

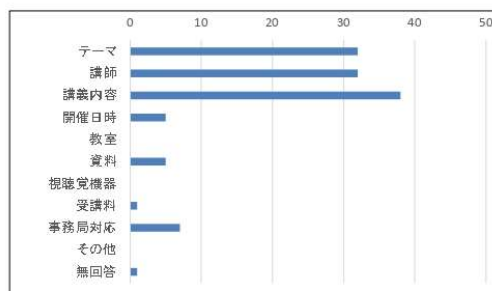
問1. 満足度

【単位：人】	
大変満足	21
満足	27
どちらともいえない	0
不満	0
大変不満足	0
無回答	1
合計	49



問2. 問1で「大変満足」「満足」と回答した方が評価する点（複数回答可）
や講師に向けての感想（自由記入）

【単位：人】	
テーマ	32
講師	32
講義内容	38
開催日時	5
教室	0
資料	5
視聴覚機器	0
受講料	1
事務局対応	7
その他	0
無回答	1



- ※ 新島裏や磯部温泉等がミステリーや小説を通して、群馬を広めていきたい。
- ※ 推理小説から観光地を訪れてみようと思うことが私自身もあり、やはり小説等から与えられる影響は絶大だと感じました。観光とも絡められていてとても面白かったです。貴重な講座をありがとうございました。
- ※ 「文学散歩」を実践してみます。
- ※ 早口なのに、聞き取りやすい声で良かった。
- ※ 理解しやすくお話しただけで、有意義な時間を過ごすことが出来た。
- ※ ・推理小説と群馬県について新たな視点で知ることが出来た。
- ※ ・関連する書籍を知ることが出来た。今後、時間があるときに読んでみたいと思う。
- ※ 興味深いお話、ありがとうございました。
- ※ 推理小説は実はあまりなじみがなかったのですが、推理小説についての興味は広がらなかったのですが、観光地とストーリー（推理小説、旅行記）の構成のおもしろさが、今の旅Youtuberで人気がある人の構成に似ているのに気づき、その視点から見えていたら面白くて仕方なかったです。
- ※ 人が求める欲求、無意識に繰り返してしまう本能をうまく盛り込まれているのが、推理小説のおもしろさなんだと思いました。
- ※ 推理小説が好きで、とても興味深い楽しい時間でした。ありがとうございました。
- ※ 推理小説など、あまり読むことがありませんでしたが、大変興味を持ちました。良いきっかけにします。ありがとうございました。
- ※ 演題が興味深い。群馬の地のあらたな発見となった。
- ※ 群馬県を小説の舞台から見てみる、という感覚は無かったので、とてもおもしろい、訪ねてみたくなったお話でした。大変ありがとうございました。
- ※ 大学的群馬ガイドはとても新しい感覚でした。こんなものが群馬県題材としてできるんだと思いました。
- ※ 単純に話として面白かった。しかし、文学論として聞くと、物足りなかった。文学は専門ではないとのことなので仕方がないが、このような題材であれば、歌枕とか、道行の表現などの、文学における伝統の中での旅や観光地への意識には触れて欲しい。
- ※ 西村京太郎が大好きで、文庫本があり読んでましたが、まだまだありました！この講座参考に、他推理小説を楽しみたい、大変参考になりました。
- ※ 今までと違った視点で群馬を見ていきたいと思っています。
- ※ なじみやすい分野と、おもしろそうなタイトルで興味深かった。
- ※ 推理小説が、学術のテーマとして取り上げられたのが意外で、面白かったです。
- ※ 講師のキャラクターが最高！

※ 教材本を読んではいたが、講義内容の方がとても面白かった。

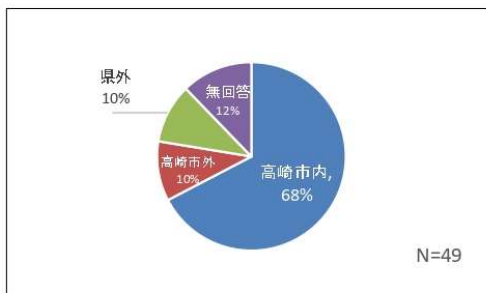
※ 西村京太郎は読んだことなかったのですが、読んでみたくなりました。機会があれば、次回は中東のお話も聞いてみたいです。

問3. 問1で「どちらともいえない」「不満」「大変不満」と回答した方が指摘される点
(自由記入)

※ 講師が早口なので、ちょっと不満でした。

問4. 通学・通勤・所属先の地域

【単位:人】	
高崎市内	33
高崎市外	5
県外	5
無回答	6
合計	49

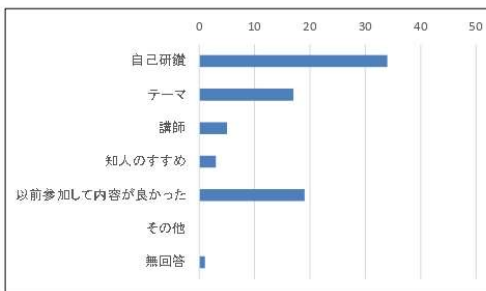


問5. 受講の理由 (複数回答可)

【単位:人】	
自己研鑽	34
テーマ	17
講師	5
知人のすすめ	3
以前参加して内容が良かった	19
その他	0
無回答	1

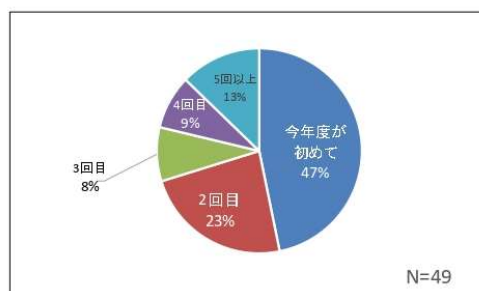
※以前参加して内容が良かった

- ・ 秋季の公開講座が良かったから (1名)



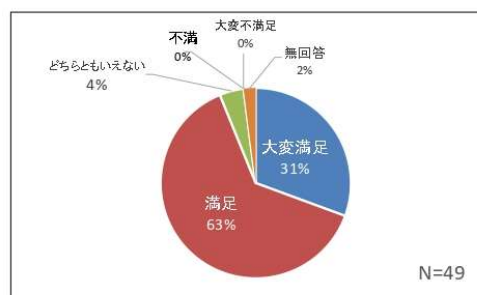
問6. 本講座 (中央公民館で行った) の受講回数

【単位:人】	
今年度が初めて	22
2回目	11
3回目	4
4回目	4
5回以上	6
無回答	2
合計	49



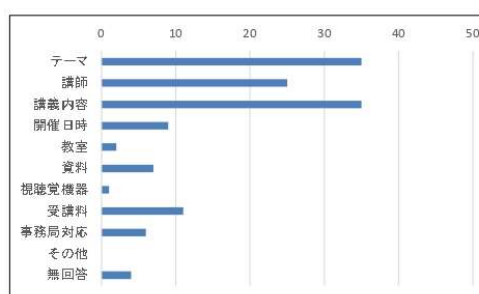
問7. 今回講座の全体的な満足度

【単位:人】	
大変満足	15
満足	31
どちらともいえない	2
不満	0
大変不満	0
無回答	1
合計	49



問8. 問7で「大変満足」「満足」と回答した方が評価する点（複数回答可）

【単位:人】	
テーマ	35
講師	25
講義内容	35
開催日時	9
教室	2
資料	7
視聴覚機器	1
受講料	11
事務局対応	6
その他	0
無回答	4



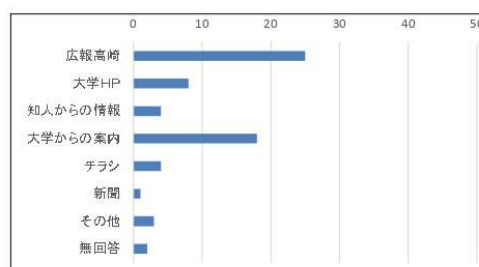
問9. 問7で「どちらともいえない」「不満」「大変不満」と回答した方が挙げた改善すべき点（複数回答可）

- ※ 多分、この書籍の意図が中途半端だからなのだと思う。たとえくだけた内容でも、大学の先生が書かれるのであればもう少し学問的な面白さを感じられるものであって欲しかった。不満とまでは言わないが、がっかりはした。
- ※ 本を読めば講演を聞かなくてもすむ感が多かったような回が多かった。

問10. 本講座をお知りになったきっかけ（複数回答可）

広報高崎	25
大学HP	8
知人からの情報	4
大学からの案内	18
チラシ	4
新聞	1
その他	3
無回答	2

- ※その他
- ・フリーペーパー（1名）
 - ・ちいき新聞（2名）



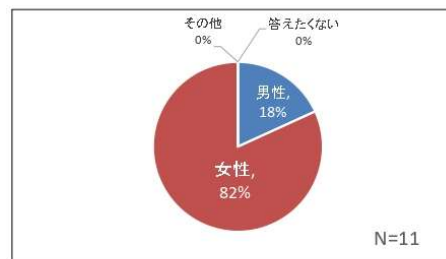
第17回地元学講座（今さら聞けない児童養護施設のあれこれ）アンケート調査結果報告

2024/9/27の講座終了時にアンケート調査を実施した。
 [有効回答数：11人（回収率：91.67%）]

参加人数 12名

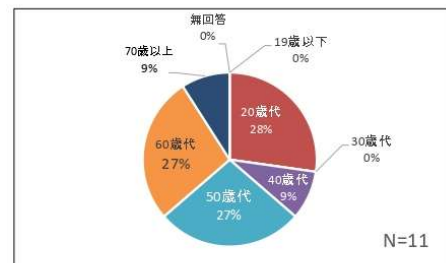
問1. 性別

【単位：人】	
男性	2
女性	9
その他	0
答えたくない	0
合計	11



問2. 年齢

【単位：人】	
19歳以下	0
20歳代	3
30歳代	0
40歳代	1
50歳代	3
60歳代	3
70歳以上	1
無回答	0
合計	11



問3. お住まいの地域

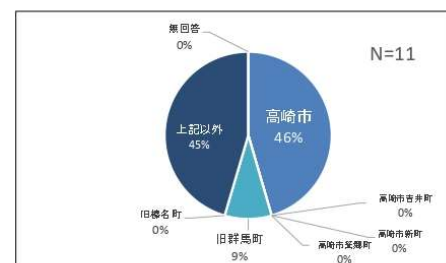
【単位：人】	
高崎市	5
高崎市吉井町	0
高崎市新町	0
高崎市箕郷町	0
旧群馬町	1
旧榛名町	0
上記以外	5
無回答	0
合計	11

※上記以外

佐波郡玉村町、利根郡昭和村、北群馬郡吉岡町

埼玉県深谷市 各1名

無記入 1名



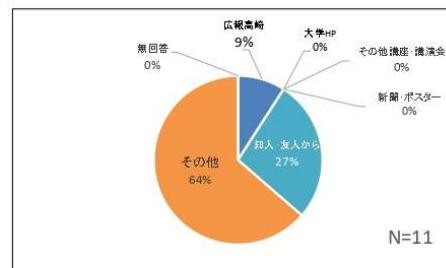
問4. 本講座を知ったきっかけ

【単位：人】	
広報高崎	1
大学HP	0
その他講座・講演会	0
新聞・ポスター	0
知人・友人から	3
その他	7
無回答	0
合計	11

※その他

大学のTwitter 1名、大学からのメール 4名

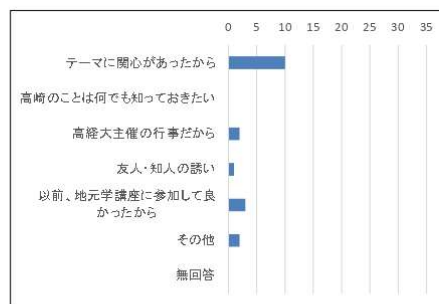
無記入 2名



問5. 受講の動機（複数回答可）

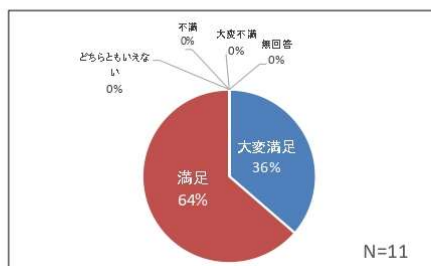
【単位:人】	
テーマに関心があったから	10
高崎のことは何でも知っておきたい	0
高経大主催の行事だから	2
友人・知人の誘い	1
以前、地元学講座に参加して良かったから	3
その他	2
無回答	0

※その他
主任児童委員の研修で、希望館様にお話をいただき、より深く知りたいと思いました。



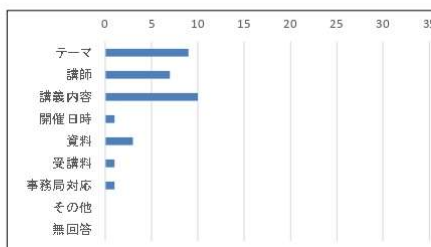
問6. 満足度

【単位:人】	
大変満足	4
満足	7
どちらともいえない	0
不満	0
大変不満	0
無回答	0
合計	11



問7. 問6で「大変満足」「満足」とお答えいただいた方の評価する点（複数回答可）

【単位:人】	
テーマ	9
講師	7
講義内容	10
開催日時	1
資料	3
受講料	1
事務局対応	1
その他	0
無回答	0



- ※ いろいろな興味のベクトルを持った参加者が集まった内容だったと思いますが、多岐にわたるお話を伺えて、大変良かったです。
- ※ 実際の話、踏み込んだ質問回答、一般的な講座と異なり、話を聞き続けることができました。ユニットの中も見られ、お子さんたちの様子も垣間見れました。
- ※ 実際の話が聞けたので大変勉強になりました。本を読むだけだとあまりよく分からないものが、実際に話を聞くことで、分かって良かったです。
- ※ また、施設内の見学という、なかなか出来ないことをさせていただいたので、ありがたかったです。
- ※ 施設見学ができた点。参加者の様々な質問に対応してくださった点。
- ※ 施設内見学をすることによって、実態を知ることができました。
- ※ 児童さんの健全を取り戻せそうな清潔な施設でした。
- ※ 施設見学により、理解が深まる。
- ※ 児童養護施設は敷居が高いイメージでしたが、思いの外オープンで良かった。

問8. 問6で「どちらともいえない」「不満」「大変不満」とお答えいただいた方の理由

(「満足」と回答いただいている方からのご意見として)

※ 進行に配慮が必要だったと思います。

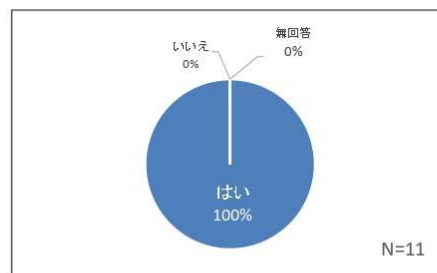
テーマ「今さら聞けない児童養護施設のあれこれ」と関連するものの、本筋から外れた質問や意見が多い

ように感じた。(講話の途中での質疑応答)

地元で頑張っている希望館の良いところをもっと知ってもらえる(紹介される)ような話をもっと聞きたかった。

問9 地元学にまた参加したいか

【単位:人】	
はい	11
いいえ	0
無回答	0
合計	11



問10 取り上げてほしい高崎市の歴史・民俗、現状の問題・課題等、また事務局への要望、お気づきの点など

※ 良い企画、きっかけを作っていただき、ありがとうございました。

先日、南公民館で高崎まつり及び長野郷に関する展示があり、大変興味深い内容でした。

手作りの感じの雰囲気がとても印象的でした。

大学で扱っていただけたら、どんな内容になるのだろう、と関心を抱きました。

今後の企画も楽しみにしています。

※ 古墳めぐり・「いざ鎌倉、鉢の木」・古街道歩き・倉淵メロン栽培見学

施設の職員の皆様、毎日、子供たちのことをありがとうございます。

お茶をありがとうございました。

※ 地域でいろいろと活躍されている方々を、紹介していただければ幸いです。

※ 情報提供をお願いいたします。

※ 火山をめぐる歴史など、道を中心にして。

都市への地域の集中、山間部には人がいなくなっているのか、これからどうなるのか。

地域科学研究所動静

・2024年度の地域科学研究所執行部は、所長・佐藤徹(地域政策学部教授)、副所長・永田瞬(経済学部教授)、総務企画委員長・米本清(地域政策学部教授)、編集委員長・若林隆久(地域政策学部准教授)、研究委員長・伊藤宣広(経済学部教授)によって構成されています。

・2024年11月現在、地域科学研究所の所員は59名、名誉研究員2名、特定研究員4名です。

高崎経済大学地域科学研究所

ニュースレター No.24

発行 2024年12月27日

群馬県高崎市上並榎町1300(〒370-0801)

TEL(027)344-6267 FAX(027)343-7103

E-mail: chiikikagaku@tcue.ac.jp

©TIRS